

企業版ふるさと納税を通じて継続支援、田中鉄工・土浦市・事業構想大学院大学が産官学連携
～土浦市「地域循環型ゼロカーボン都市」の実現を目指し、構想から実装へ～
水郷のまち「つちうら」ならではの地域資源を活かした脱炭素事業構想を、
社会実装に向けさらに具体化

アスファルトプラントメーカーの田中鉄工株式会社（本社：佐賀県、代表取締役社長兼 CEO：村田満和）は、茨城県土浦市が目指す「地域循環型ゼロカーボン都市」の実現を、地方創生応援税制（企業版ふるさと納税）を通じて昨年度に続き支援しています。2026 年 9 月 25 日(金)には土浦市役所で納税感謝状贈呈式が行われ、当社から寄付金を贈呈するとともに、土浦市から感謝状をいただきました。



土浦市は、安藤市長が掲げる「人と自然が共生する持続可能な水郷のまち つちうら」というビジョンのもと、事業構想大学院大学と連携して「ZERO-CARBON TSUCHIURA 事業構想プロジェクト研究」を進めています。水郷のまちならではの資源を生かして CO₂排出量の削減につながる事業を生み出し、土浦市で展開することを目指しています。

昨年度は 10 名の研究員が、土浦市の地域資源に着目し、再生可能エネルギーや資源循環、観光、教育など、幅広い分野で土浦ならではの脱炭素に関する事業構想を策定しました。今年度は、フィールドリサーチやワークショップを通じて現状を把握し、事業内容の具体化と実施上の課題整理を進めます。2026 年 11 月からは少人数伴走型のプログラムが始まる予定です。2 期のプログラムでは、事業構想の社会実装に向けた具体的な次の一手の明確化を目指し、実装ロードマップの完成と産官学の実装体制の構築、実証実験の実施、実装に必要なパートナーとの連携などを進めていきます。また、2027 年度には構想を実際の事業として動かす段階へ進み、土浦ならではの形で未利用資源の回収・アップサイクル・市民参加・事業の仕組み化を実現する「土浦モデル」を確立することを目指しています。

田中鉄工は、寄付による支援に加え、道路インフラの脱炭素や資源循環に取り組む中で培った知見と技術を生かし、プロジェクトを後押ししてまいります。地域資源の活用を CO₂排出量の削減につなげ、事業を土浦市に根付かせることで、「地域循環型ゼロカーボン都市」の実現に貢献してまいります。

■田中铁工(株)とは

1918年(大正7年)創業のアスファルトプラントメーカー

アスファルト合材生産に関わる製品・サービスの提供をメイン事業として展開

本社：佐賀県三養基郡基山町、国内拠点 15 カ所

資本金：9,000 万円 売上高：82 億円 従業員：200 名

▼省庁等との連携事例

省庁・地方自治体・各種 SDGs 団体・民間企業等との連携事例（一部抜粋）

【経済産業省】

- ・経済産業省 2023 年度はばたく中小企業・小規模事業者 300 社 GX 部門 受賞
- ・経済産業省 省エネルギー投資促進・需要構造転換支援事業の先進設備・システムに採択
- ・経済産業省 サークュラーエコノミーに関する産官学のパートナーシップ 参画
- ・経済産業省 地域未来牽引企業 認定
- ・経済産業省 GX リーグ加盟 / 「GX 率先実行宣言」 ゴールドグレード&グリーン鋼材購入とグリーン鋼材製品納入

【環境省】

- ・環境省 令和 5 年度地域ぐるみでの脱炭素経営支援体制構築モデル事業 参画
- ・環境省 令和 6 年度バリューチェーン全体での脱炭素化推進モデル事業参画

【内閣府】

- ・パートナーシップ構築宣言
- ・地方創生 SDGs 官民連携プラットフォーム加盟

【その他】

- ・国連グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン 加盟
- ・長崎県大村市・北海道小樽市・福岡県大牟田市と連携し、Roa(d)calSDGs Project を実施
- ・佐賀県多久市と 2050 ゼロカーボンシティ 包括連携協定を締結
- ・脱炭素チャレンジカップ 2026 日本 WPA 最優秀未来へのはばたき賞受賞

（ロードカル SDGs の取り組み）

- ・第 10 回「ものづくり日本大賞」にて九州経済産業局長賞受賞

（UCO を活用した GX アスファルトプラント）

- ・中小企業版 SBT 認定 / バイオサーキュラーエコノミー協議会加盟 / リグニン協会加盟

ホームページ：<https://tanaka-iron-works.com>